学校番号	1007

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	ソルフェージュ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	改訂　音楽通論（教育芸術社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

音楽の基礎的な知識・理論を学ぶとともに、読譜、視唱、視奏、聴音等の音楽の基礎的な能力の向上をはかります。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・音楽の基礎的な知識、理論を理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身につける。
・読譜、視唱、視奏、聴音に関する基礎的な知識や技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
・音楽を形作っている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
・音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にする態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに，表現意図を音楽で表すために必要な知識・技能を身に付けている。	音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ，音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたり，表現意図を明確にもったり，音楽や演奏の価値を見いだして鑑賞したりすることが できている	感性を磨き，音楽文化の継承，発展，創造に寄与する態度をもち、主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組んでいる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1・2・3	楽典	「音の長さ」 音符・休符の種類 拍子と拍子記号　等 「音の高さ」 五線、譜表、音部記号 音の高さ、音名、幹音と派生音 変化記号、記譜法　等 「記号」 強弱、速度、発想標語、奏法 反復、略記、装飾　等 「音程」 音程、度数、複音程、転回音程	a:　音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに,表現意図を音楽で表すために必要な楽典の知識を身に付けるようにする。 b:　音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ,音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりするために,楽典の知識を音楽や演奏に活かしている c:　主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組み、楽典の知識を身につけている	試験	観察	観察
	視唱	発声の基礎、新曲視唱、指揮を伴ったリズム視奏、ピアノ伴奏つき 新曲視唱	a：音楽を構成する諸要素の基本的事項を理解し、読譜力を高める。新曲視唱に必要な発声の 基礎と、基本的なリズム様式を身に付けている。 b:　旋律やリズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、調性感、和声感、リズム感を持った 音楽表現をしている。 c:　旋律やリズムの変化と、それらが生み出す曲想との関わりに関心を持ち、新曲視唱の活動に主体的・協働的に取り組んでいる。	試験	観察 試験	観察
	聴音	ピアノ生演奏による基本的な単旋律、複旋律、和声聴音、暗記聴音、 様々な楽器による聴音	a:　各課題の調性や拍子を理解し、正確な音程や リズム、音価、和声を記譜している。調性に 沿った臨時記号を選択し、あらゆる譜表ですばやく記譜する力を身に付けている。 b:　旋律や和声を知覚し、それらの働きを感受しながら、調性感やリズム感をもって音楽を聴き 取っている c:　旋律やリズム、和声との関わりに関心を持ち、聴音の活動に主体的に取り組んでいる。	試験	観察 試験	観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度